

第 14 回産業用バーチャルリアリティ展 見学報告

機械系班 中澤 新吾

1. はじめに

東京にて、産業用バーチャルリアリティ展 他 2 展が開催され参加見学したので、ここに報告する。

2. 出展内容

- ・ 第 14 回産業用バーチャルリアリティ展
- ・ 第 17 回設計・製造ソリューション展（同時開催）
- ・ 第 10 回機械要素技術展（同時開催）

開催期間：平成 18 年 6 月 21 日(水)～23 日(金)

参加日：平成 18 年 6 月 23 日(金)の 1 日間

会場：東京国際展示場（江東区有明 3 丁目）

主催：リードエグジビション ジャパン(株)

3. 概要および見学目的

製品の開発や生産期間の短縮、コスト削減など、企業では様々な取り組みを行っている。その主要なツールとして活用される 3 次元 CAD・CAE などの設計・開発ツール、並びに連携して使用されるバーチャルリアリティ技術。その応用分野は多岐にわたり、あらゆる産業分野に欠かせない技術となっている。

今回の展示では合計 1200 社以上の企業が一同に出展し、自社技術、製品のアピールや商談の場となっており、最新の技術に接することができる。

そこで、これら技術を見学調査し、機械工学科演習室にも導入されている 3 次元 CAD および CAE の現状と、今後の動向を知るための情報収集も合わせて行った。

4. 所感

バーチャルリアリティや 3D 技術に関しては、様々なアイデアで優れた製品が出来上がってはいるが、各社バラバラで統一性が無いように感じる。今後どのような方向に向かっていくのか期待したい。

設計・製造ソリューション関係は、すでに各企業が製品を導入し、実績も出ていることから出展の大半は、既存(バージョンアップ)品やオプション製品の発表が主だったようだ。今後も企業は力を入れて行く分野だと感じた。

全体を通して、産業技術としては華やかな部類に入るのか非常に盛況で、製品のプレゼン時には各ブースに人だかりができていた。また、週末でしかも期間最終日でもあるせいか、来場者の人数が非常に多く、通路が通れないほどの混雑で、各企業の関心の高さを覗かせた。